

第8回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成25年9月2日（月） 13：00－14：50
2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、鯨井委員、松尾委員、御正委員、薬師寺委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 新たな基幹ロケットの開発着手に当たり、整理すべき事項について

上記の議事について、JAXAから資料2、鯨井委員から資料3に基づいて説明があった。主な説明の内容は以下のとおり。

○ロケットの機体のみならず、射場等地上設備、飛行安全等も含めた全体を「総合システム」として検討すべき。

○コアロケットを液体水素、液体酸素を用いた液体燃料ロケットとし、固体燃料ブースターを装着することや、イプシロンロケットの活用により、将来の様々な打ち上げ需要に柔軟に対応していく。

○JAXAが開発プロジェクト全体を管理し、民間事業者がロケット機体の開発を取りまとめる体制とするべき。

○自律性確保に必要な技術については、JAXAが主体となり実施すべき。

○開発責任の明確化のため、ロケット製造企業が一元的に製造全体をとりまとめるプライムコントラクター制に移行するべき。

○民間事業者は、商業受注活動の知見を活かし、また、機体製造の観点から、JAXAが行う総合システム設計に対し関与・提言を行う。

○運用段階において、民間事業者は品質向上等の必要な設計改善やコストダウンを主体的に実施。今後、他国の例も参考に、民需獲得に向けた体制を構築していく。

説明を受けて、委員から以下のような意見等があった

○JAXAと民間事業者の契約の範囲外で発生した付随的なコストについては、民間事業者が負いきれないので、JAXAが負うことになろうが、詳細については、今後個別に議論していく。

○民間の主体的関与が増えていくに伴い、JAXA、民間の人材を有効活用し、総合力を発揮できる体制構築が重要。

新たな基幹ロケットの開発着手に当たり、整理すべき事項については、議論を踏まえて、引き続き議論を行っていくこととなった。

(2) 中長期的な観点からの宇宙輸送システムの在り方に係る総合的検討について
白坂部会長代理から、資料4に基づき説明があった。説明を受けて、委員から以下のような意見があった。

○需要とリターンが見通せなければ、民間は投資できない。民間投資をどう促進するのか、投資家などの意見も踏まえた議論をするべき。

○将来輸送系を持つ政策的意義についても検討するべき。

以 上